

ラクト・ジャパン乳製品情報9月号

2011/9/1

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、下記にて乳製品情報 9月号をお届け致しますので、ご査収の程宜しくお願い申し上げます。

<目次>

脱脂粉乳・全脂粉乳情報	「静かな粉乳市場」	・・・2-3 頁
バター情報	「ロシア需要減少」	・・・3-4 頁
ホエイ情報	「EU 相場は緩やかな下落傾向、US は依然タイトな状況」	・・・ 5 頁
カゼイン情報	「相場は高値安定、今後のオセアニアの生産に期待」	・・・ 5 頁
乳糖情報	「10～12 月積 交渉開始 値上げは避けられない模様」	・・・5-6 頁
チーズ情報	「ドイツのチーズ生産量 2011 年 1 月-6 月期」	・・・7-10 頁
	「オランダのチーズ生産量 2011 年 1 月-6 月期」	
	「EU のチーズ輸出・製産量」	
	「米国の CWT 輸出助成金制度が変更」	
	「CME 相場」	
国内情報	「道外移出量が増加、乳製品供給は逼迫」	・・・10-11 頁
今月のトピックス		
アムステルダム駐在員情報	「ドイツで更なる合併の可能性」	・・・12-13 頁
	「オランダの生乳生産にかげり」	
	「Nestle 社、上半期は 13.7%減益」	
	「英公取委、乳製品カルテルで 9 社に罰金」	
メルボルン駐在員情報	「海外投資家、NZの酪農場に注目」	・・・14-16 頁
	「乳業各社、小売り大手の価格競争に対抗」	
中国情報	「蒙牛は乳原料基地・牧場建設に継続して力を注ぐ」	・・・17 頁
出典		

<脱脂粉乳・全脂粉乳情報>

- 静かな粉乳市場 -

8月に入り引き続き粉乳相場は弱含みもしくは横ばいにて推移した。夏休み休暇に入る関係者が多く、市場の動きは全体的に乏しかった。オセアニアの乳シーズンはこれからピークを迎える為、今後の相場動向を静観する需要者も多い。一方、EUの相場が徐々に強含みとなってきている印象も受ける。夏休み休暇が終わりこれからの市場動向に注目される。

～EU～

EUの生乳生産量は、季節的要因で減少を続けている。今年のEUの夏は7月から8月初旬にかけて、例年よりも涼しい気候が続き降雨量が多かったものの、全体の生乳生産量は昨年比較好調に推移している。特にフランスの生乳生産量は累計で前年対比8%増、ドイツ、英国では1%増で推移している。例年、7月-8月は夏休み休暇の時期であり、関係者が不在の為、市場からの目立った引き合いは多くはなく、相場も大きな変動を見せることは珍しい。今年も国際市場の流れに乗り、弱含みにて推移してきている。2011年に入っては最も低い相場レベルにて推移していると思われる。8月後半には多くの関係者が夏休み休暇から戻ってきており、年末までの需要を視野に入れた在庫調整、追加発注が発生してくると予想される。実際この1-2週間で引き合いは活発になってきており、特に中東向けの販売などが目立っている。この先一時的に引き合いが活発になると予想され、現在相場下落は止まり、横ばいもしくは上昇基調に転じるような雰囲気となっている。全脂粉乳、脱脂粉乳ともに継続して弱含みにて推移してきたため、国際市場においてEU製品に興味を持つ需要者が増えてきたものの、EUR/USDの為替はユーロ高となっており、USD建ての国際輸出価格においては競争力が乏しくなっており、先月までのEU産粉乳の価格優位性は薄れつつある。

～オセアニア～

これからオセアニアの乳シーズンはピークを迎えるが、NZでは異常な寒波に見舞われており、報道の通り一部地域で大雪を記録した。例年よりも気温上昇の時期が遅れている。豪州に関しては、降雨量の多い湿った気候が続いており、今後の乳生産量の影響が心配されている。しかしながら、当初予想されていた楽観的な見込みを引き続き予想する関係者が多く、前年比較でNZでは4-5%増、豪州では1-2%増という生乳生産量になると予想されている。一方で、昨年は事前の楽観的な生乳生産量見込みを過信し過ぎた結果、後半は供給逼迫を招き、オセアニアの物量確保に苦労した需要者も多く、今後のオセアニアの生乳生産量の推移が注目される。昨年オセアニアの物量確保に苦労した需要者は少なくなく、年末までの必要数量を早めにおさえる傾向があったと思われる。その為、現在国際市場からの引き合いは少なく、全脂粉乳、脱脂粉乳ともに相場は弱含みにて推移している。フォンテラgDTの結果も引き続き下落している。全脂粉乳の平均価格はUSD3,385/MTで前回結果より2.6%下落となっている。脱脂粉乳についてはUSD3,438/MTで前回比較1.2%下落となっている。未だ全脂粉乳の平均価格は脱脂粉乳の価格を下回っており、実態の相場とは異なった価格となっている。全脂粉乳については、主要需要国である中国の輸入上限数量が影響しており引き合いが制限されている。実際の全脂粉乳相場はサプライヤーの環境によって大きく異なると思われる現在。相場動向を静観している需要者もいる中で、夏休み休暇が明けた需要者からの年末までの必要数量の追加発注など引き合いが一時的に増加する事も予想される。

～米国～

米国の生乳生産量は減少を続けている。7月の生産量は前年比較0.7%の減少となっている。USDA(米国農務省)は、高温多湿な天候要因、及び飼料コストの上昇から、2011年の米国の生乳生産量の見込みを下方修正している。生乳生産量の減少の影響によって米国の乳製品相場は前月よりも上昇している。現在米国の脱脂粉乳相場は堅調に推移している。夏休み休暇中の需要者、サプライヤーが多かった為、国際市場は静かだったものの、今後は徐々に市場も活発に動くと思われる。ロシアや中国など、大手需要国からの引き合いは引き続き好調と予想される。またインドの乳価上昇に伴い、同国政府が全脂粉乳、脱脂粉乳の輸入割当数量を20,000トンから50,000トンに増加させたことなどから、今後年末にかけて需要が高まってくると予想される。

一方、これから新乳シーズンを本格的に開始するオセアニアからの粉乳供給力の増加が期待される。9月の粉乳国際相場は若干弱含みもしくは横ばいにて推移し、各需要者の相場動向をうかがう展開が続くと予想される。

(現在の粉乳取引価格)

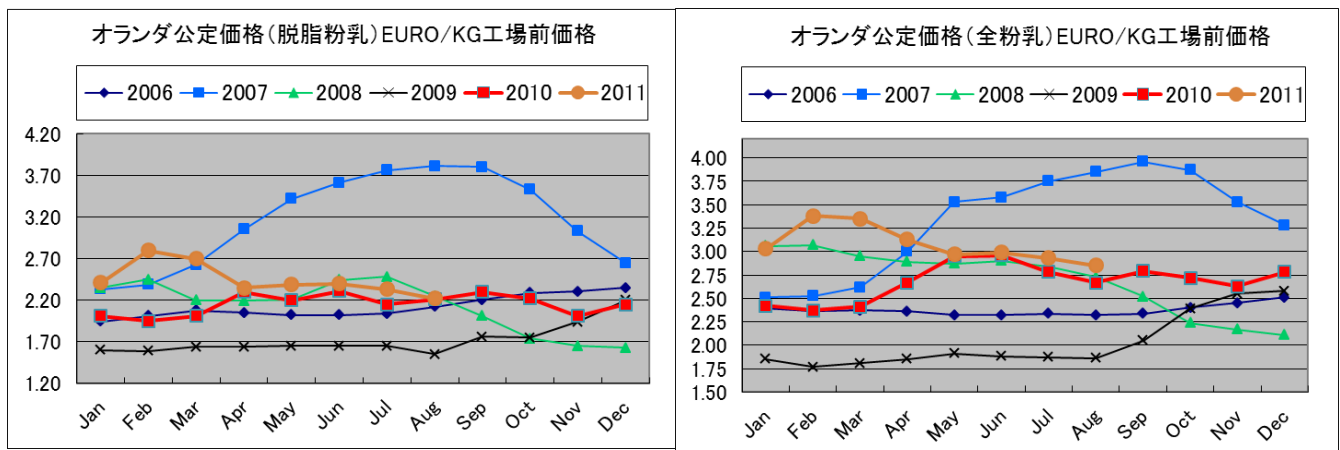
EU産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE): USD 3,500 – 3,700 /MT CFR ASIAN PORT

EU産全脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE): USD 4,400 – 4,700/MT CFR ASIAN PORT

オセアニア産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE): USD 3,500 – 3,800 /MT CFR ASIAN PORT

オセアニア産全脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE): USD 3,800 – 4,400 /MT CFR ASIAN PORT

米国産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE): USD 3,600 – 3,800 /MT CFR ASIAN PORT



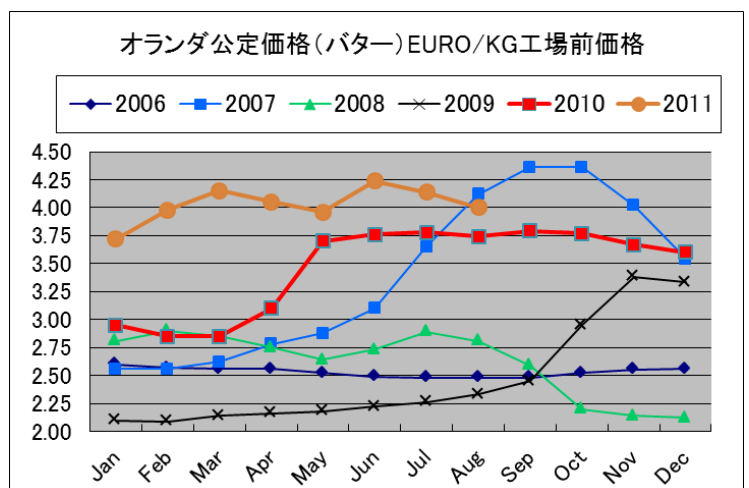
<松本・林>

<バター情報>

- ロシア需用減少 -

EUでは需要家の夏休みが終了。8月後半からは、これら需要家が休暇前に買い付けたポジションを確認の上、不足分を買い足す動きが出始めた。生乳生産は季節変動で落ちこんでいるが概ね順調で、特にフランス・ドイツでは引き続き前年同期比プラスで推移している。PSA(助成付民間在庫)は99千トンに達すると見られ、心配されていたクリスマス需用を賄える見通しとなった。8月15日付けでPSAへの在庫繰り入れ受付は終了し、既に翌日から一部数量の放出が可能になっている。ただ、8月末になってクリーム価格が再度上昇する兆しがあり、向こう1~1.5ヶ月程度、EUの乳脂肪価格は横ばい又は一時的に若干の上げを見るかもしれない。その後はやや軟調との予測が出てきている。

ロシアのバター買い付けが陰りを見せており、輸入数量は3月以降下落、価格も6月から下落している。現状、ロシアへの最大の輸出国はNZである。また、中国への粉乳(全脂粉乳)輸出も停止しており、シーズンの始まりということもあって、同国は程度の数量に脂肪をまとめて処理したい意向があると思われる。大雪が降り搾乳シーズン開始が若干遅れるようであるが大きな影響は無い模様。



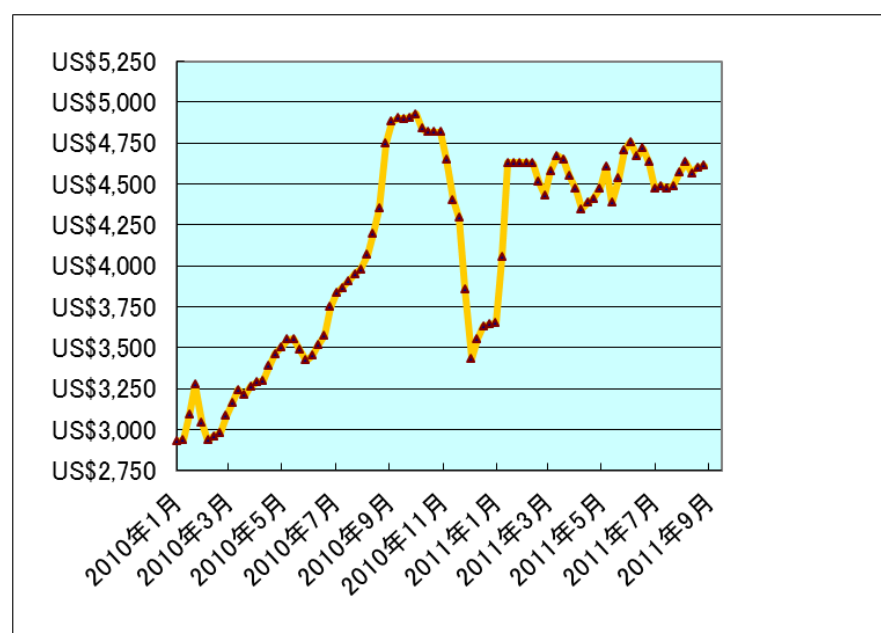
ロシアのバター輸入量(2011年1-6月)							単位: MT	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計	
NZ	3,182	5,701	2,478	2,672	2,750	2,030	18,813	
フィンランド	1,173	2,237	991	1,000	1,040	796	7,237	
ウクライナ	0	0	56	56	155	296	563	
フランス	328	830	559	272	86	291	2,366	
アルゼンチン	50	575	324	225	75	175	1,424	
ドイツ	748	666	508	99	75	101	2,197	
デンマーク	127	272	146	308	120	48	1,021	
ウルグアイ	125	450	376	25	12	25	1,013	
エストニア	11	11	19	8	13	23	85	
アイルランド	12	30	7	8	6	16	79	
オーストラリア	1,448	999	575	80	0	15	3,117	
合計	7,866	11,946	6,285	4,911	4,643	3,831	39,482	

※合計数量は、上記以外の国も含む

米国では、猛暑の影響で今年の生乳生産予想が下方修正された。在庫水準も下がってきており直近では積極的に輸出成約できる価格が出てきづらい。しかしながら、米国の業界団体は、「長期的に見て、中国、インド、東南アジア、中東、北アフリカが牽引役となって世界の乳製品需用は堅調に推移。需給ギャップも更に拡大する中、EU、NZ、ブラジル、東欧らの伝統的或いは新興供給国と比較しても米国には販売拡大のチャンス大」との分析を発表している。

バターは現在、輸出国ごとの価格差が大きく、特に春先以降はEU産が突出して高かったが、今後は主要輸出国の価格帯はある程度のレンジに収まってくるのではないかと予想する。

CME(シカゴ)バター相場(トン当たり換算、国内、直物)



2011年8月

現在のバター取引価格

(換算レート EUR/USD1.44)

EU産バター価格

USD5,950~USD6,500/MT CFR ASIAN PORTS

オセアニア産バター価格

USD4,000~USD5,000/MT CFR ASIAN PORTS

米国産バター価格

USD5,000~USD5,500/MT CFR ASIAN PORTS

※オセアニアのうち、高いレンジは豪州産

<山渕>

<ホエイ情報>

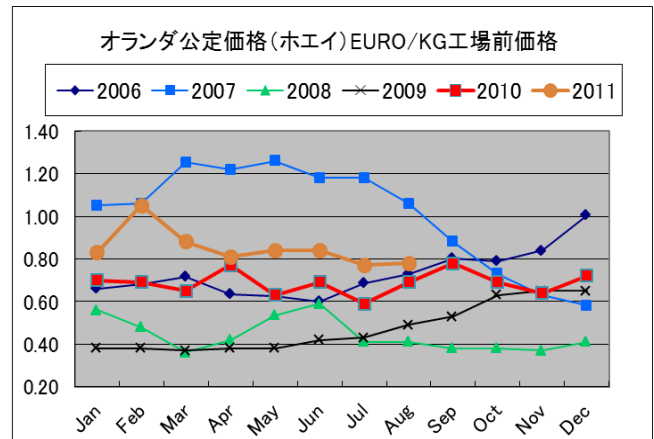
-EU 相場は緩やかな下落傾向、US は依然タイトな状況-

EU 産ホエイパウダーの相場は、夏休みシーズンで成約数が少ない中、横ばいもしくは軟調気味に推移しており、2011年2月以来の下落傾向は続いている。生産量はEUでの順調な生乳生産量を背景に増加している状況。

米国産ホエイパウダーの相場は堅調に推移している。夏場の乳量減少及びチーズ生産減少により、ホエイパウダー生産も減少気味で、供給が限られている状況。

需要の方は、ベーカリー向けを中心に国内需要が好調に推移、加えて輸出处向け需要も好調で、市場にはタイト感が出ている。スポットの引き合いに対応できるメーカーは少ない。2011年6月末時点の在庫数量も21,119トンとここ2ヶ月で19%も下落している。

WPC-34 においても供給は依然タイト、ただ、多少の在庫の積み増しができている状況で価格も若干の下落が見られた。2011年1-6月までの生産量は96,340トンと前年並みだが、輸出量は86,831トンで前年比5%の減少。2011年6月末の在庫数量は15,946トンで前月比11%の増加となっている。



<松永>

<カゼイン情報>

- 相場は高値安定、今後のオセアニアの生産に期待 -

2011年8月のカゼイン相場は依然として堅調に推移している。ただ、EU各メーカーでは生乳生産量の増加を背景に、順調に生産を行っている状況で、当面の需要に対する手当に問題はない様子。

在庫量は通常並み。

今後、EUでの生産量は季節的な減少を迎えるため、オセアニアの乳シーズン開始を前に、例年より早めのオセアニアでの生産再開が期待されている。今後の市況についてはオセアニアでの乳量がどうなるかによって左右される要素が強いが、堅調な需要の中、大きな変動は当面はないものと思われる。

<松永>

<乳糖情報>

- 10~12月積 交渉開始 値上げは避けられない模様 -

< 欧州 >

例年9月上旬から10~12月積みの契約が開始されるが、需給が予想以上にタイトであることから、今年は既に8月下旬から10月積みの交渉を開始しているメーカーもあるようである。生乳生産も最盛期を過ぎ、乳糖の生産も限られた中でこれから需要期を迎えることから、価格もさることながら、物の確保を優先しての動きであると思われる。

欧州域内のみならず、世界的に依然乳糖需要が旺盛なことから、多くのメーカーで在庫を切り崩しながらの供給が続いているようである。特に米国においてその状況が堅調であり、米国で賄いきれない需要をカバーするため、欧州への代替需要が増えているようにも思われる。

日本においても右表の通り、米国からの輸入量は減少しているのに対し、欧州においては軒並み前年を上回って推移していることから伺える。

国別乳糖輸入量:6月時点での累計(単位:トン)			
	2010	2011	増減率(%)
オランダ	4,915	5,522	12
フランス	434	681	57
ドイツ	4,945	5,827	18
イタリア	-	-	-
リトアニア	-	-	-
カナダ	1,540	1,600	4
米国	21,304	20,668	-3
アルゼンチン	74	25	-66
豪州	88	50	-43
ニュージーランド	1,984	2,111	6
イスラエル	370	674	82
その他	60	301	402
合計	35,714	37,459	5

価格においては旺盛な需要、また高騰している穀物、糖類の相場から下げに転ずる材料が乏しく、値上げはやむを得ないという雰囲気が高く、焦点はどのくらいに値上げを抑えられるかという、値上げ幅に移ってきているようである。

< 米国 >

米国の生産は好調に推移しているが、需給においてはより一層引き締まってきたように思える。その中でも粉乳のタンパク調整用途としての需要の伸びが堅調で、特に米国からニュージーランド向けの輸出の増加は突出しており、今後の市場への影響が懸念される場所である。

このような状況から生産が好調に推移しているにも関わらず、供給が追いついていない為、一部メーカーの日本向けの船積みでも遅れが出てきているようである。

10～12月積みの契約が9月上旬から始まるが、欧州以上に需給のタイト感が強く、値上げは避けられないとの見方が強くなってきている。日本のみならず、海外においても、これ以上値上がりすると乳糖から代替品へ切り替えが進むとの声も聞こえ始めており、また複数のメーカーで増産計画もあることから、来年に向けて値上げの傾向が収束することが期待されていたが、最近になりその状況に変化が起きてきている。それは乳糖の生産、特に食用用途の生産が予測していた数量より増えないのではないかとこのことである。これまでも言われていた食用から医薬用途へ生産のシフト、また一部の地域では、チーズ生産を減らし、脱脂粉乳、バターの生産を増やすことによる乳糖生産への影響に加え、期待されていた増産計画が予定より遅れていることがわかってきた。

これまでは強い需要に引っ張られ、価格においては値上げが続いていたが、生産が好調であることから供給面での不安は少なかった。しかしこのまま需要が拡大している状況で、増産計画に遅れが出ると、一時的に需要が供給能力を上回る可能性も出てきた。

一方、メーカーサイドとしても価格高騰により市場を失うことは避けたいことから、このまま値上げが続くことも考えにくく、今年の後半から来年にかけて、いつ、またどのくらいの価格帯で潮目が変わるのかということに注目が集まってきている。

2011年 1月～6月 米国主要乳糖メーカーの輸出実績 :合計 100,654 トン(前年比 46%増)

日本 8,618トン(3%減)、メキシコ 11,748トン(35%増) 中国 17,328トン(150%増)

ブラジル 5,489トン(3%増) ニュージーランド 17,418トン(403%増)

2011年 6月 生産量 40,325トン (5月比 3.4%増 前年比 13.2%増)

月末在庫 35,789トン (前月比 7.3%増 前年比 1.8%増)

< 渡辺 >

<チーズ情報>

- ドイツのチーズ生産量 2011年1月-6月期 -

ドイツの2011年1月-6月の生乳生産量は、前年同期比2.4%増の1,509万トンとなった。2011年1月-3月の生産量は昨対比2.9%増となっていたが、その後乳量は伸び悩み2.4%増に留まった。また、牛乳中に含まれる脂肪値は2010年比較0.05%減、タンパク質0.02%減少している。

チーズ生産量(プロセスチーズ以外)は、1.1%増の110万トンで僅かに上昇した。内訳はクアルク等のフレッシュ系チーズのみが5.6%の増加となり、ハードチーズ、スライスカット、ソフトタイプ、モザレラタイプは軒並み減少した。生乳生産量が伸びた分の余剰乳は、ヨーロッパ内で高値が続くバター(昨対比4%増)と脱脂粉乳(昨対比9%増)向けに使用されたと見込まれる。

生産品目	2010年	2011年	昨対比
	1月-6月	1月-6月	
生乳生産量	1,473.80	1,509.20	2.40%
市乳	264	263.5	-0.20%
バターミルク	7.1	7.3	2.60%
ヨーグルト系	28.5	30.1	5.20%
乳飲料	121.9	125.8	2.80%
クリーム	27.5	27.2	-1.90%
バター	23.6	24.6	4.10%
チーズ	109.5	110.7	1.10%
ハード	10.4	10.2	-1.90%
スライス系	38	37.3	-1.90%
ソフトタイプ	7.3	7.3	0.00%
モザレラタイプ	12.9	12.8	-0.20%
フレッシュ	39.6	41.8	5.60%
プロセスチーズ	9.2	8.8	-4.60%
練乳	21.4	20.5	-4.20%
粉乳(脂肪値:1.5%以上)	4.4	4.9	12.90%
脱脂粉乳	15	16.3	9.00%
ホエーパウダー	19.1	19.2	0.30%

(単位:万トン)

-オランダのチーズ生産量 2011年1月-6月期 -

オランダの2011年1月-6月の生乳生産量は592.9万トンと昨年同月比ほぼ横ばいとなった。上記の通りドイツが2.4%増の増加となった一方、オランダの生産量が伸び悩んだ要因として、2010年4月-2011年3月期のオランダの生乳生産割当量が1.2%超過していた為、第1四半期(2011年1月~3月)に生乳生産量を増加させる事が難しかった事が要因と思われる。

生産品目	2011年 1月-6月	2010年 1月-6月	昨対比
生乳生産量	592.9	592.4	0.1%
バター	6.3	6.8	-6.6%
チーズ	37.7	37.5	0.6%
全脂粉乳	6.4	6.8	-2.5%
脱脂粉乳	18.1	16.5	8.2%
練乳	18.1	16.5	9.8%
ホエーパウダー	5.5	4.7	17.2%

(単位:万トン)

- EUのチーズ輸出・製産量 -

2011年1月-4月のEUの域外向けチーズ輸出量は昨対比10.5%の大幅増となった。特に3月の輸出量は好調だったが、5月以降主要輸出先であったロシアの購買量が激減した為、輸出量は低下している。ロシア向けの輸出量が減少した要因として、第1四半期のロシアの購買量が過多であった事と、ウクライナとベラルーシ等の近隣国のチーズ、更にロシア国内産チーズがEU域内チーズより安価で取引されている為、ロシア国内のEU産輸入チーズの販売が伸び悩んだ事が要因となっている。

今後は秋・冬に向かい需要が増加し、ロシアの購買量も徐々に戻ってくる事が予想される為、同国の購買動向を注視する事が必要となる。

2011年1月-4月のEU27カ国のチーズ生産量は1.9%増加となった。

	2011年 1月-4月	2010年 1月-4月	昨対比
ベルギー	26	23	13.00%
チェコ	37	55	-32.80%
デンマーク	96	99	-3.00%
ドイツ	730	717	1.80%
スペイン	41	40	2.50%
フランス	604	586	3.00%
イタリア	337	344	-2.10%
リトアニア	29	26	11.50%
ハンガリー	23	25	-8.00%
オランダ	252	248	1.60%
オーストリア	53	52	1.90%
ポーランド	208	200	4.00%
ポルトガル	18	17	5.80%
スロバキア	9	9	0%
フィンランド	37	37	0%
スウェーデン	35	37	-5.50%
イギリス	125	119	5.00%
その他	120	95	26.30%
合計	2780	2729	1.90%

(単位:千トン)

- 米国の CWT 輸出助成金制度が変更 -

5 月半ば以降の米国現地のチーズ価格高騰を受け、現地国内乳価も高値安定しているため、現地 6 月 11 日に CWT は 2011 年のチーズ輸出助成金予算総額として 1,500 万ドルとする(昨年 10 月時点では 4,000 万ドルと予算策定をしていた。)と発表した。同時に、2012 年・2013 年の乳製品輸出助成予算総額をそれぞれ年間 3,500 万ドルと見込む旨も発表しており、内訳は下記の通り。

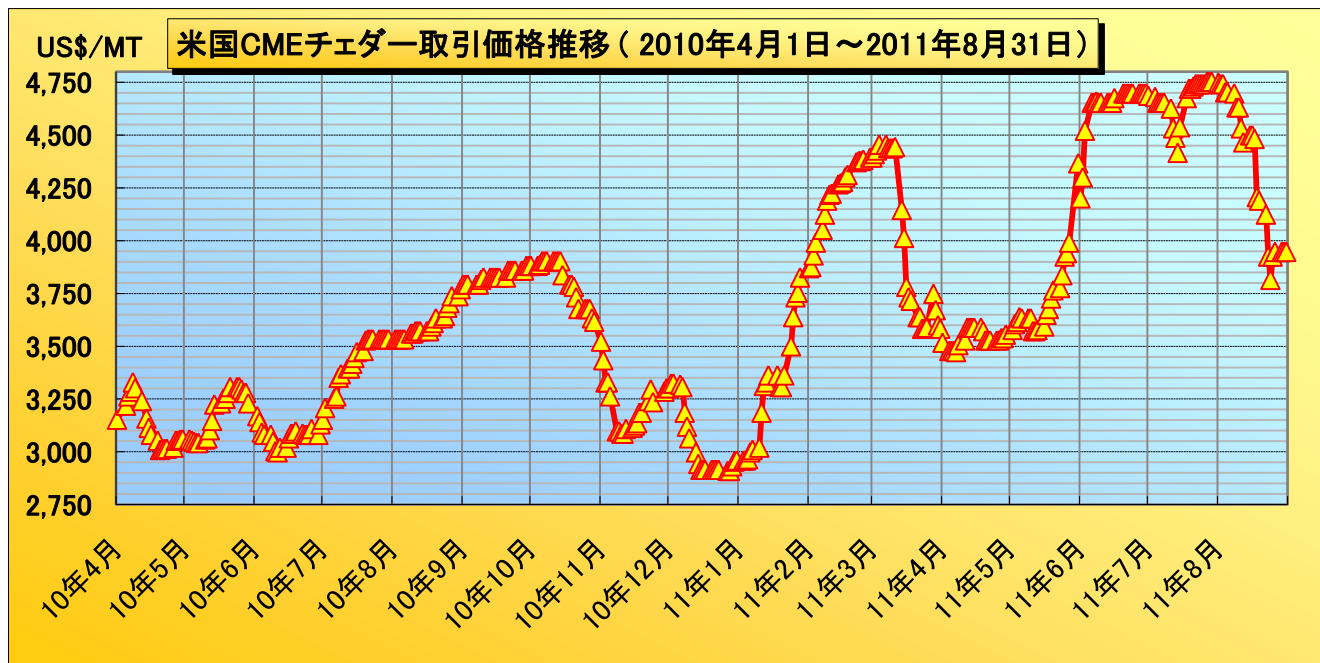
- * チーズ(チェダー・コルビー、モンレージャック・ゴーダ)輸出向け : 年間 2,200 万ドル
- * バター・バターオイル輸出向け : 年間 800 万ドル
- * 粉乳(脱脂粉乳・全脂粉乳)向け : 年間 500 万ドル

上記状況下、本年 8 月 2 日(水)までのチーズ輸出に関する助成金受付・付与数量は 26,136 トンに達しており、予算残高が約 500 万ドルとなった為、8 月以降の輸出助成金付与制度に変更を加える旨の発表が 8 月上旬発となった。上記からチーズ向け輸出助成金の月間付与上限金額が設定された事になる為、今後年内までの船積みについては助成金の付与が限定的になる。

今回発表された 12 月船積みまでの輸入チーズ向け助成金付与制度の変更点は下記の通り。

- ※ 基本的には残高 500 万ドルの予算を 8/9/10/11/12 の 5 ヶ月間に渡り各月 100 万ドルを上限予算とする。
- ※ 単月で 100 万ドルを消化しなかった場合は、余剰分を翌月以降に回す。
- ※ 年内に消化しなかった金額は翌年の予算に繰越となる。
- ※ 9 月-12 月 輸出助成付与申請を 毎月第 1 及び第 3 水曜日の受付とする
(これまでは毎週水曜日に輸出助成金付与申請を受け付けていた。)

- CME 相場 -



(価格はメーカー倉庫前渡しスポット値)

2011 年 8 月の CME マーケット価格は月初に 8 月内の最高値を記録し、以降軟調な相場動向となった。8 月 1 日の取引開始価格は 7 月末の価格から継続して約 USD 4,746/MT と直近の最高値水準からスタートし、その後相場は軟調に推移。8 月 24 日に価格は約 USD 3,815/MT まで軟化した後 8 月 25 日から相場価格は再び反転し、8 月 31 日の時点の価格 US\$3,947/MT となっている。

※上記相場価格はすべてメーカー現地工場からの庫前渡し価格

米国の 2011 年 6 月のチーズ生産量は約 40.4 万トンで前年同時期比較 1.3%増、更に 2011 年 1 月-6 月の合計チーズ生産量は約 240.0 万トンで前年同時期比 3.0%増となった。

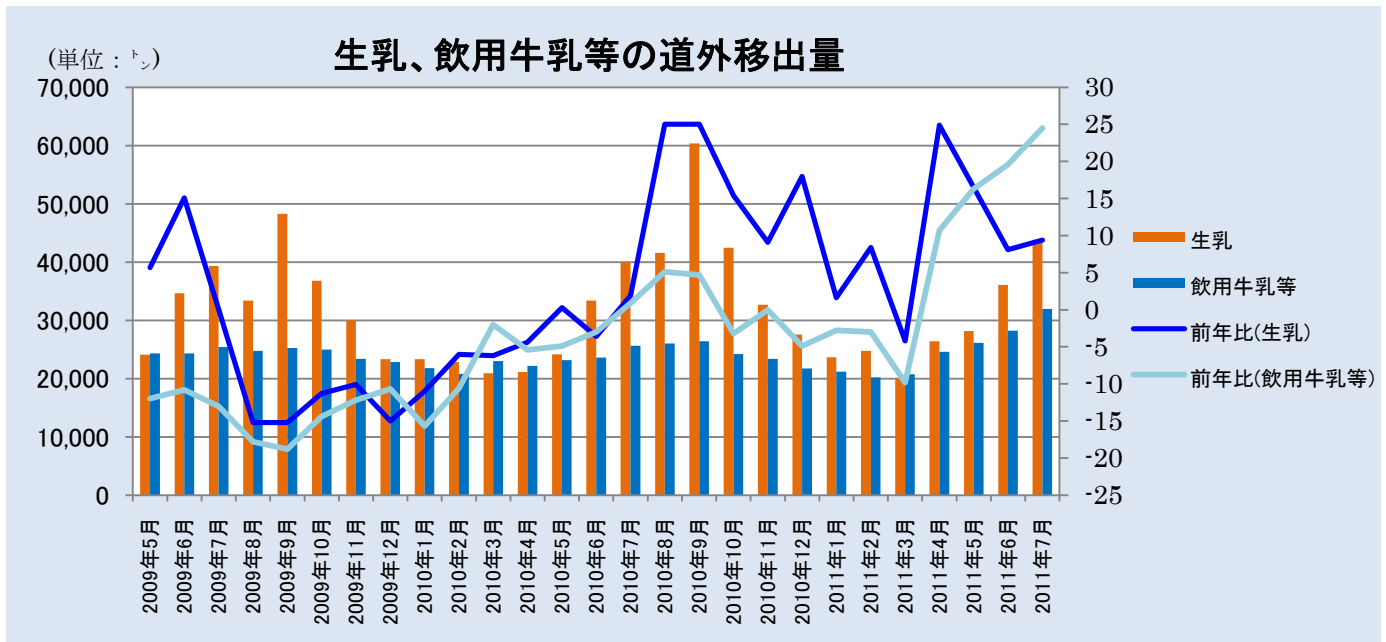
<外山>

<国内情報>

-道外移出量が増加、乳製品供給は逼迫 -

=生乳・牛乳=

7 月の全国生乳生産量は 623,805 トン(前年比 5.6%減)で 22 ヶ月連続の前年割れとなり、北海道の生乳生産量も 330,363 トン(前年比 3.6%減)で 12 ヶ月連続の前年割れとなった。一方、生乳と飲用牛乳の道外移出量が増え続けている。7 月の生乳の道外移出量は 43,817 トンと前年比 9.4%増で、震災以降、前年を大幅に上回る道外移出が続いている。飲用牛乳の移出量は 31,935 トンと前年比 24.5%増で、月間量としての最大値を記録した。震災の影響に加え、梅雨明けが早かったこと、猛暑が続いたことが需要を押し上げた。北海道の生乳生産落ち込みと道外移出増加が重なり、脱脂粉乳、バターなど特定乳製品の製造が十分に出来ていない。

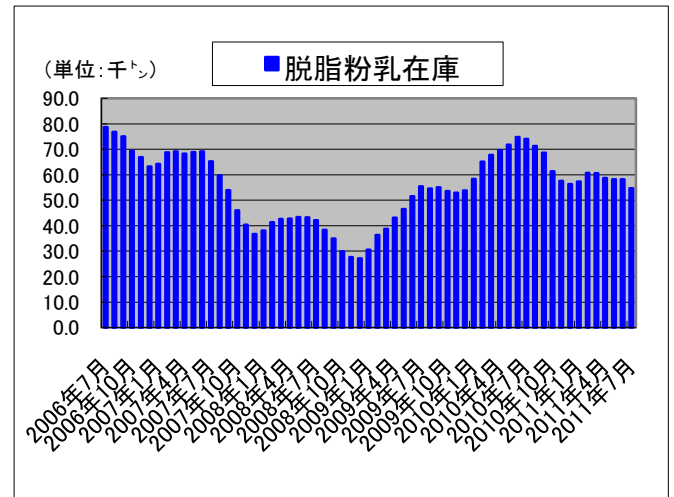
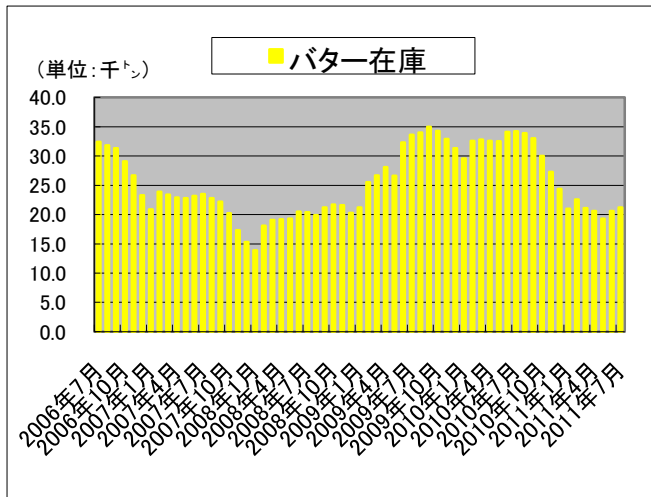


=バター=

7 月のバター生産量は 4,294 トンで前年同月比 23.5%減、12 ヶ月連続での大幅減産となった。7 月末の在庫は 20,957 トンと前月比で 287 トン減少している。8 月 18 日にはバターの売渡入札が行われ、入札数量約 1,068 トン対して、応札は約 4,119 トン、平均落札価格は約 ¥1,214/kg となり、国内の需給逼迫状況を表す形となった。また、8 月 16 日に 600 トン、8 月 23 日に 1,400 トン、計 2,000 トンの追加輸入入札が実施され、外国産バターは毎月一定量が順次放出されることになるが、需給バランスをただちに回復させる程のインパクトに乏しく、このまま何か変化がなければ、当面バター不足感は続くものと思われる。

=脱脂粉乳=

7 月の脱脂粉乳生産量は 8,710 トンで前年比 24.2%減、12 ヶ月連続で大幅減産となった。7 月末の在庫は 50,342 トン、前月比 4,356 トン減となった。先行きの不透明感によりメーカーの出荷制限が強まっていることから、代替として脱脂濃縮乳を使用する動きもみられる。北海道で加工向けに回る生乳は極端に落ち込んでおり、今後さらに供給が引き締まっていく可能性が高いと思われる。



生乳生産量(23年7月)(単位:千トン)

	生乳生産量	牛乳等向け	内業務用	乳製品向け	その他
平成 22 年度	624	358	21	260	5.5
前年比	94.40%	98.70%	88.70%	89.10%	93.50%

平成 23 年度、バター需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第 1 四半期	16,507	78.0%	15,869	81.2%	21,244	62.1%	3.3
第 2 四半期	13,300	94.0%	18,300	99.7%	20,389	68.0%	3.2
第 3 四半期	14,700	98.6%	23,500	98.3%	15,274	72.7%	2.4
第 4 四半期	19,700	99.1%	20,000	98.6%	14,974	72.7%	2.3
合計	64,207	91.6%	77,669	94.6%	14,974	72.7%	2.3

在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

平成 23 年度、脱脂粉乳の需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第 1 四半期	35,673	82.8%	39,675	102.3%	54,697	73.9%	4.3
第 2 四半期	27,500	93.2%	41,000	97.4%	41,197	67.1%	3.2
第 3 四半期	34,500	98.7%	36,000	92.2%	39,697	69.3%	3.1
第 4 四半期	41,000	99.4%	36,000	90.3%	44,697	76.1%	3.5
合計	138,673	93.2%	152,675	95.5%	44,697	76.1%	3.5

在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

<本橋>

今月のトピックス

海外情報

アムステルダム駐在員情報

- ドイツで更なる合併の可能性 -

ドイツ最大の乳業メーカーDMK社のマネージングディレクター・Josef Schwaiger氏は、「ドイツにおいて、更なる企業合併が起こり得る」とDie Welt紙のインタビューで語っている。ドイツには未だ約80の乳業会社があり、これは明らかに多すぎていて、このような合併の動きは中期的に起こり得る、というのが同氏の見方である。

酪農家はより先見性を持ちはじめ、もはや新たな巨大組織を恐れることは無くなった。更なる合併により、リテール取引の交渉にあってはその発言力を増すであろうとしている。

DMK社は、本年4月にNordmilch社とHumana社が合併したもので、乳業会社として世界で13位の売上げを持ち、ドイツでは国内生乳生産量の1/4を処理する最大手乳業である。Schwaiger氏は更なる規模拡大に強い意欲を示しており、特にアジア、北アフリカ、中東を中心とした海外展開を推し進める意向で、中国には間もなく支店が開設される。

- オランダの生乳生産にかげり -

Dutch Dairy Boardのデータによると、今年前半のオランダの集乳量は、昨年同期をほんの僅かに上回る数字にとどまった。2011年1～6月の集乳量は、5,929百万リットルで前年同期比0.1%増。拡張傾向を示す他国が多くある中でやや活気に欠けた感がある。2010/11年度に割当を1.2%超過した後、酪農家では生産引き上げの余地が少なくなっているようである。斯様な生乳生産を受けて、バター・脱脂粉乳の生産が大きく削減された一方、チーズは僅かながら増産となり、ホエイパウダーは17.2%増と大きく伸びた。コンデンスミルクも9.8%増となっている。2011年1～6月の製品構成は以下の通り。

	2011年	±%	2010年(千トン)
生乳生産	5,929.10	0.1	5,924.00
バター	63.2	-6.6	67.7
チーズ	377	0.6	374.6
全粉乳	66.7	-2.5	68.4
脱脂粉乳	31.5	-8.2	34.3
コンデンスミルク	181.1	9.8	164.9
ホエイパウダー	55.2	17.2	47.1

- Nestle社、上半期は13.7%減益 -

食品で世界最大手のNestle社は8月10日、上半期(1～6月)の純利益が47億300万スイスフラン(64億7,200万ドル)となり、前年同期比13.7%減少したと発表した。原材料価格の高騰とスイスフラン高が逆風となった。

売上高は410億400万スイスフランと12.9%減ったが、継続事業ベースだと7.5%増加している。中でも、アジア・オセアニア・アフリカが11.7%と大幅に伸び、米大陸と欧州はそれぞれ5.6%、4.1%伸びている。

製品別では、粉末・液体飲料、乳製品・アイスクリーム、栄養・健康の伸びが目立つ。同社は下半期について、「政治的、経済的な情勢が不透明で、原材料価格の変動が不安定な上、先進国で消費意欲の減退も見込まれるため、なおも厳しい状況が続く」としている。

- 英公正取引委員会、乳製品カルテルで9社に罰金 -

英公正取引委員会(OFT)は10日、小売大手などによる乳製品のカルテル容疑について、計9社に総額およそ5,000万ポンドの罰金を科すと発表した。Tescoやセインズベリー、アズダを含む小売り4社と乳製品大手5社は、2002年から2003年にかけて、牛乳とチーズの販売価格を不当に調整していたとされる。OFTは報告書で、9社のカルテルの結果、消費者は牛乳1リットル、チーズ100グラム当たりそれぞれ2ペンスを余分に支払わされていたと試算。

ただ、カルテルによる追加負担分の総額については示されていない。

各社に課せられた罰金は、小売りではTescoが1,043万ポンド、セインズベリーが1,104万ポンド、アズダが939万ポンド。また製造各社では デアリークレストが714万ポンド、ワイズマンが320万ポンドなどとなっている。なお、自ら摘発につながる情報を提供したデンマーク乳製品大手アーラ(Arla)フーズは制裁を免れている。

<木幡>

メルボルン駐在員情報

- 海外投資家、NZの酪農場に注目 -

NZの酪農場に海外資本が注目している。実体のある投資先を求めていることが背景にある模様。
(8月19日付NZヘラルド)

NZの海外投資局(OIO)は昨年後半、ドイツ企業のアクイラ・グループによる総面積3,300ヘクタールの酪農地帯の買収を承認した。南島が中心で、買収額は9,150万NZドル(約58億4,000万円)に上る。

OIOによれば、アクイラは市場価格のピークを下回っている農場を求めているという。もう一つのドイツ企業、AgrarINVEST・Luxも昨年、南島オタウタウ(Otautau)の403ヘクタールの農場を1,173万NZドルで買収する案について、OIOの承認を得た。同社は豪州とNZの酪農場のほか、ブラジルの畜牛場に関心を示しているという。このほか、米ハーバード大学は昨年9月、オタゴ中央部の1,760ヘクタールの酪農場を3,400万NZドルで取得することでOIOの承認を得ている。

OIOは2006年以降、外国の投資家による30万400ヘクタールの農地の買収を承認。さらに23万9,600ヘクタールについてリース権などの取得を認めている。

- 乳業各社、小売り大手の価格競争に対抗 -

大手スーパーが展開する牛乳の価格競争が激化する中、乳業各社は失った市場シェアの奪回を目指している。
(8月17日付シドニー・モーニング・ヘラルド)

コールズは今年1月26日のオーストリア・デー(建国記念日)から、自社ブランドの牛乳を1リットル当たり1豪ドル(約80円)に値下げした。これを受け、乳業各社のブランドのシェアは急減。コールズとウールワースの自社PBのシェア率は4~6月期に約64%増加した。終わりが見えない両社の値下げ合戦は、酪農業者の怒りを呼び、上院調査委員会の開催につながった。一方で、牛乳加工業者は、健康面の利点をアピールし、安価な自社ブランドとの差別化を図っている。ニュージーランドのA2ミルクは、スーパーマーケット大手2社の価格競争が始まってから唯一、市場シェアを伸ばしているブランドだ。A2ミルクの製品は、タンパク質の種類である「ベータカゼイン A2」の含有量が多いのが特長。通常の市販牛乳は、A1とA2の2種類のタンパク質を含んでいる。

栄養士協会は、A2ミルクの製品が通常の牛乳よりも健康に良いという科学的に明確な根拠はないとしている。これに対してA2側は、従来の牛乳よりも消化が良いと主張し、これが小売り大手の価格競争の悪影響を受けていない理由だとしている。

イタリア系乳業大手パルマラットは、乳業各社にとって今年の市場は厳しいものになるとの見方を表明。安価な自社ブランドと健康面で差別化するのは、長期的な目標だとしている。

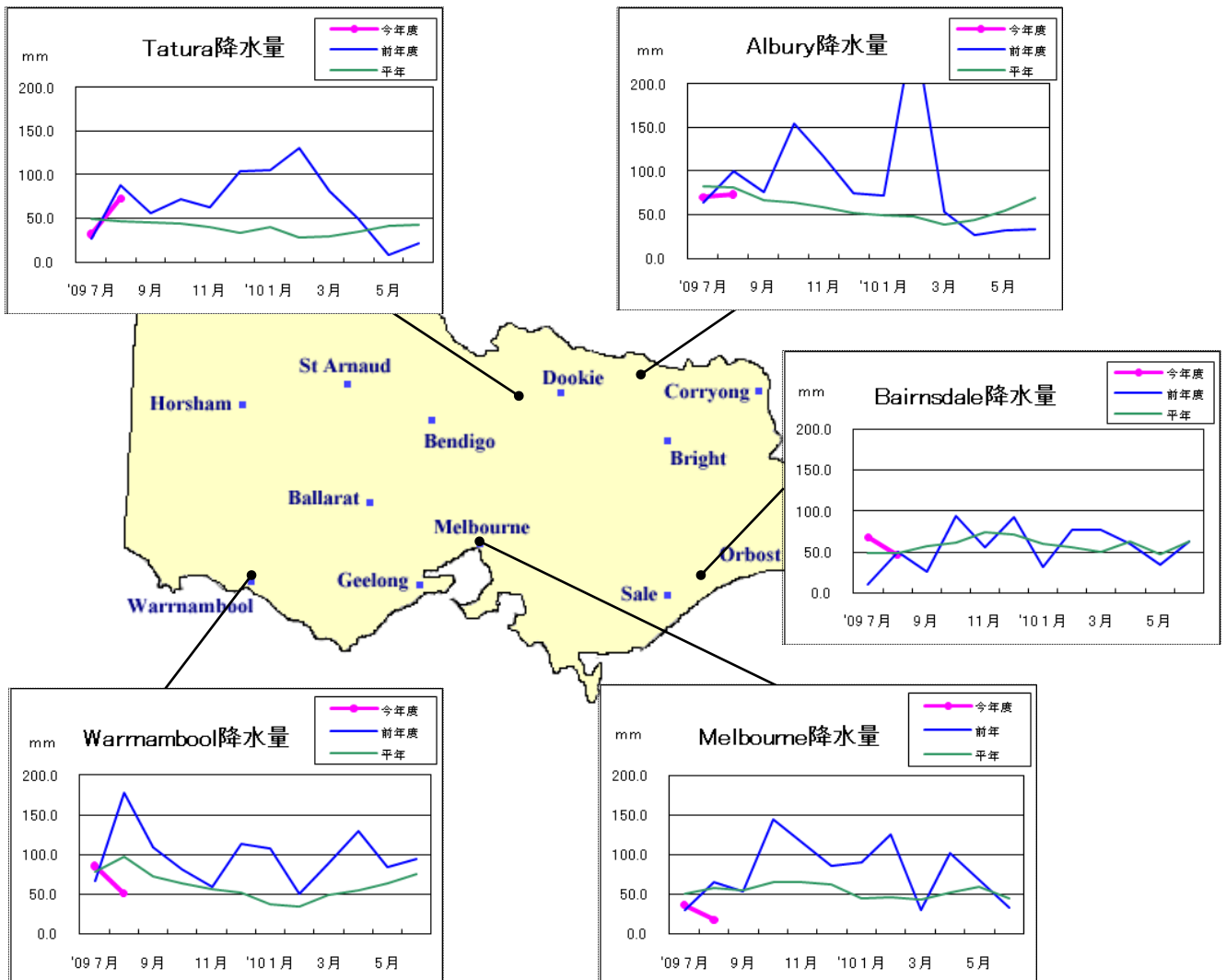
- 7月のビクトリア州の主な町の降雨量 (mm) -

	7月降雨量	昨年同月降雨量	平年	平年比
Tatura (北部)	32.2	26.4	49.1	-34.4%
Warrnambool (西部)	85.8	66.6	78.5	+9.3%
Bairnsdale (東部)	67.8	10.8	49.1	+38.1%
Albury (北東部)	70.2	64.4	82.3	-14.7%
Melbourne	36.4	30.8	50.6	-28.1%

8月に入ってからのビクトリア州の降雨量は、25日の時点で以下の通り

	8月降雨量	昨年同月降雨量	平年	平年比
Tatura (北部)	73.0	87.4	47.2	—
Warrnambool (西部)	50.8	178.0	98.0	—
Bairnsdale (東部)	46.4	50.2	48.5	—
Albury (北東部)	73.4	100.4	80.7	—
Melbourne	18.0	64.6	58.6	—

※グラフは8月25日までの降雨量



- ニュージーランドの主な町の降雨7月と累計 (mm) -

	7月降雨量	昨年同月降雨量	平年	平年比
South Auckland (北島)	148.1	83.3	135.2	+9.5%
Taranaki (北島)	143.8	59.0	133.3	+7.9%
North Canterbury (南島)	29.4	67.6	64.1	-54.1%
Southland (南島)	186.1	50.5	90.6	+105.4%

- 生乳生産量 -

単位: 百万リットル

	6月の生乳生産量(前年同月比)	'10 7月～累計(前年同時期比)
NSW	80.8(-0.6%)	1,044.4(-2.7%)
Victoria	393.6(+1.6%)	5,914.3(+2.1%)
Queensland	36.3(-12.6%)	486.8(-8.0%)
South Australia	43.6(-3.9%)	572.4(-5.5%)
Western Australia	28.0(-2.7%)	362.1(+3.4%)
Tasmania	38.1(+17.9%)	722.1(+7.1%)
Australia	620.3(+0.6%)	9,102.3(+0.9%)

- ビクトリア州の地域別生産量 -

単位: 千リットル

	6月の生乳生産量(前年同月比)	'10 7月～累計(前年同時期比)
東 部	116,132(-2.0%)	2,149,317(+5.0%)
北 部	124,971(+4.3%)	1,670,868(-0.2%)
西 部	152,510(+2.2%)	2,094,157(+1.2%)
ビクトリア州全体	393,613(+1.6%)	5,914,341(+2.1%)

- 豪州品目別生産状況 -

単位: トン

	6月(前年同月比)	累計(前年同時期比)
バター	4,985.5(-9.8%)	79,023.7(-4.7%)
バターオイル	1,255.9(-41.7%)	21,059.1(-7.4%)
CHEDDAR	9,045.9(-14.2%)	153,256.7(-5.9%)
その他チーズ	14,006.4(+4.5%)	160,293.2(-3.9%)
脱脂粉乳	14,135.8(-15.3%)	222,483.9(+17.0%)
全粉乳	11,125.1(+5.7%)	151,269.4(+20.0%)
ホエイ、WPC	5,701.6(+22.8%)	61,487.7(-22.3%)

< 辰澤 >

中国情報

—蒙牛は乳原料基地・牧場建設に継続して力を注ぐ—

财经网 : <http://news.jxwmw.cn/system/2011/08/26/010272322.shtml>

先日、中国乳製品工業協会(CDIA)第十七回会議が成都で行われた。

会議の席上、中国乳製品工業協会理事長・宋昆岡氏が「整理整頓後の中国乳業」という業界報告を発表し、報告の中で企業自社生産牛乳基地建設の成功が、商品品質の保障に重要な役割を果たし、同時に乳製品メーカーの迅速な発展を促進する有効な近道であると語った。

最大手の蒙牛社は、近年の急速な発展全体を見渡す乳製品企業のリーダーとして、乳原料生産に大きく力を投入したことで、同社は巨大な推進力と持続力を得られたとしている。

資料によると、2010年、蒙牛社が乳原料供給へ7億元(約88億円)以上を投資し、今年更に9億元(約110億円)を投資する計画を立てている。牧場では標準化専門設備を配備し、酪農技術の現代化を普及させ、且つ乳生産技術サービスを推進し、牛乳の生産と品質の安定のために、有力な条件を提供し、同社は業界のリーダー水準に立っている。実際ここ数年、乳製品企業が改善する主な点は、自社乳原料基地の建設である。オランダの銀行は、蒙牛が乳原料基地建設を強化し、原乳のトレースができることを確認し、市場での競争力を高めていると認識している。

蒙牛社は、現代化牧場建設の長期投資を推進しており、すでに乳原料基地建設上で有利な地位に立っている。

昨年上半期、通遼市で4億を投資し、蒙牛現代牧場万頭乳牛酪農基地を建設した。又、寧夏銀川では万頭牧場及び有機液状乳工場を建設した。

今年4月、約15億元を投資した蒙牛衡水項目と現代牧場項目が正式に始まり、現在蒙牛社は全国ですでに40数ヶ所の生産基地を建設し、乳原料基地建設はかなりの規模となっている。

同社の責任者は、蒙牛が将来もっと乳原料基地建設に投資し、少なくとも更に20-30ヶ所大型牧場を建設する予定だと伝えている。

蒙牛の次のステップは、大型国際標準化牧場と大型現代牧場の発展であり、製品品質を建設環境から掘り下げ、原料のトレースを徹底的に管理することであるとした。

宋昆岡氏は、2011年度乳製品業界のポイントは、商品品質安全保障をめぐり、業界経営管理水準をアップし、業界環境を合理化し、市場の自信を形成することであると述べ、商品品質安全を保証する第一任務は、乳原料建設であるとした。

<西村>

作成・問合せ先: 株式会社 ラクト・ジャパン

営業第一本部

乳原料第一チーム sales-1@lactojapan.com

乳原料第二チーム sales-1@lactojapan.com

乳原料第三チーム sales-1@lactojapan.com

営業第二本部

加工食材チーム sales-2@lactojapan.com

営業第三本部

チーズチーム sales-3@lactojapan.com

.....
出典: AGRA EUROPE 各誌、
Dairy Industry Newsletter
農畜産業振興機構“畜産の情報”
AMS Dairy Market News
日刊酪農乳業速報
Rice Dairy
USDA (Dairy Market News Weekly report)
.....